

Table of Contents

I. はじめに

II. スンダランドの中心地としての済州島

III. アトランティス神話と済州神話の比較

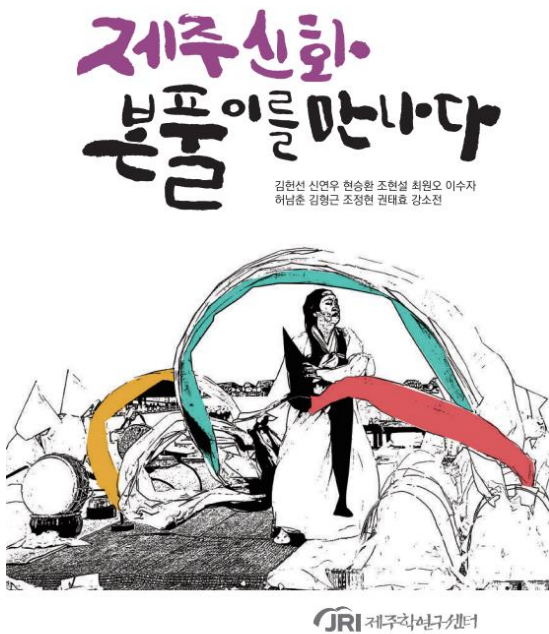
IV. 君子国と済州神話の比較

V. おわりに

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較



Ⅲ. アトランティス神話と済州神話の比較



済州島の創世神話の枠組みは『聖書』や『ポ波尔・ヴフ』神話と共通点がある。

シン・ヨヌ、ソウル科学技術大学校
文芸創作学科 シン・ヨヌ教授



済州神話を代表する雪門台ハルマン神話が、世界的にも稀な偉大な女性神話の原型であることに注目した

コ・ヘギョン、〈神話と夢アカデミー〉院長



差使本解・天地王本解に作家の想像力を加えて新たに再誕生

チュ・ホミン、『神と共に』原作者

Ⅲ. アトランティス神話と済州神話の比較



朝鮮英祖47年、1771年に済州島の儒者であった張漢喆が科挙を受けに行く途中で台風に遭い、琉球王国(沖縄)へ漂流して経験した出来事を記録した書

ソルムンデハルマンに関する文献記録のうち最も古いものとして知られる張漢喆の『漂海録』-国立済州博物館

或起拜向漢拏而祝曰 白鹿叀子活我活我
訖麻叀婆活我活我
盖耽羅之人諺傳仙翁騎白鹿遊于漢拏之上
又傳邃古之初有訖麻姑步涉西海而來遊漢拏云

[あるいは(商人たちの一部が)立ち上がって漢拏山に向かって拝み、こう言う「白鹿仙子よ、(私たちを)お助けください、お助けください!仙麻仙婆よ、(私たちを)お助けください、お助けください!」と祈願する。そもそも耽羅人の古い言い伝えに、仙翁が白鹿に乗って漢拏山の上で遊んだといい、また遥かな昔、初めて仙麻姑が歩いて黄海を渡ってきて漢拏山で遊んだという。]

-1771年正月初五

一つは『訖麻叀婆(仙麻仙婆)すなわち訖麻姑(仙麻姑)』である。つまり、『仙麻(姑)』と『仙文(大ハルマン)』は外形上似た文字であるから両者は同一人物であるということである。『仙文大』は『ソルムンデ』の異形である。もう一つは『初めて仙麻姑が歩いて黄海を渡ってきて漢拏山で遊んだ』である、つまり、仙麻姑が背丈が漢拏山ほどのソルムンデハルマンでなければ、黄海をざぶざぶと歩いて渡ってくることはできなかったであろうということである。出典:メディア済州(<http://www.mediajeju.com>)

Ⅲ. 아틀란티스神話と濟州神話の比較



BC7万年

Ⅲ. 아틀란티스神話と濟州神話の比較

〈마고의 영역〉



BC1.2万年

Ⅲ. 아틀란티스神話と濟州神話の比較



Ⅲ. 아틀란티스神話と濟州神話의 比較



BC0.23万年

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較

- 1)海の神ポセイドンは右手に槍の一種であるトライデント、左手にイルカを持っており、彼は神々の王クロノスの息子の一人で、兄弟たちとともに世界を分割統治していた。
- 2)ゼウスは大地を、ハデスは地下世界を、ポセイドンは海洋の支配権を持つ神であったが、ギリシアの神々はポセイドンにアトランティス島を支配させた。
- 3)島の平野地域にある丘には、大地から生まれた一組の人間の夫婦とその一人娘クレイトーがいたが、夫婦が死んだ後、その娘に情欲を感じたポセイドンは彼女と結婚したのである。
- 4)ポセイドンは丘の周囲の大地を砕いて海水を引き入れ、その結果、島の中央部を軸として円い形の陸地が二重に取り囲む形状となった。
- 5)当時の人々は船や航海術をまったく知らなかったため、誰一人中央にあるクレイトーの住居に近づけず、この地にポセイドンは温泉と冷泉が湧き出る二つの泉を掘り、大地にはあらゆる種類の作物が豊かに実るようにしたが、ここは後に中央島と呼ばれ王国の首都となった。
- 6)ここでポセイドンと人間の娘は五組の双子の息子を産み、アトランティス島を10分割して息子たちをそれぞれの王とし、最も年長の息子が彼らの指導者である王の中の王となった。
- 7) その息子の名がアトラス (Atlas) であったため、この島はアトランティスと呼ばれるようになった。アトラス一族は才能に秀でた人物を多く輩出したが、必ず最年長者が王権を継承し、幾世代にもわたって繁栄が続いた。他の王国も同様に繁栄したが、これらの王国の間には厳格な規律があり、常にこの規律を遵守した。

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較

- 8) その規律とは、アトランティス内部での争いを厳しく禁じ、もしいずれかの王国で王家を転覆させようとする反乱が起これば、各王国の王は互いに力を合わせてこれに立ち向かって戦い、アトラス一家の指揮に従うというものであった。また、王の中の王であっても、十人の王のうち過半数の同意を得られなければ、いかなる兄弟王をも処罰する権限を持たなかった。
- 9) ポセイドンの十人の王の子孫たちは互いに結束して国土の整備と開発に努めた。まず始祖の居所であった中央島を取り巻く海路に橋を架け、要所にはトンネルを掘り、神殿を築いた。大きな船でも出入りできるよう幅が広く水深の深い運河を縦横に造り、運河の入口にはドックも設けた。
- 10) いくつもの神殿の中でも特に豪華で壮大だったのはポセイドンを祀る神殿であり、横約180メートル、縦約90メートルの巨大な建築物で、外装はすべて銀板、屋根は黄金板で覆われ、内部の天井はすべて象牙で造られ、金や銀、真鍮、白金などで装飾されていた。
- 11) この神殿には多くの黄金像が置かれていたが、最も大きなものは戦車の上に立ち六頭の天馬を走らせるポセイドン像であり、神殿の周囲には歴代の王の黄金像や市民が奉納したもの、そして他国の王が献上したものがずらりと並んでいた。
- 12) この中央島を取り巻く円形の陸地にも、その用途に応じて戦車競技場や近衛兵の兵舎など様々な建築物が造られ、最も外側には一般の家屋が密集していた。港は世界各地から訪れた貿易商人や船員でたいへん賑わっていた。
- 13) プラトンの詳細な記録によれば、この島の南には広大な大陸があり、そこは高い山々に囲まれ、青草の茂る広い平野であった。王国はこの地にも碁盤の目のように秩序正しく運河を造った。
- 14) 平野は東西533キロメートル、南北355キロメートルの長方形で、周囲を幅180メートルの大運河が取り囲み、東西南北を横断する数十本の水路もあった。人々はこの水路を利用して木材や作物を運んだのであり、この平野では運河のおかげで一年に二度収穫できたという。

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較

- 15) アトランティスの平野部分は6万の地域に分けられており、これらの地域では男性の指導者がそれぞれ一名ずつ選抜され、軍事体制もこの指導者の指揮のもとにそれぞれ組織された。
- 16) 戦車は六地域に一台、各地域に戦車用の馬二頭、騎手二名、騎兵と走者各一名、重装備の歩兵弓兵・投石兵各二名、軽装備の投石兵・投槍兵各三名、そして1,200隻にのぼる船舶の乗員として四名ずつを徴兵する義務が課された。おおまかに計算しても陸軍100万人、海軍24万人という強力な軍事組織を有していたということになる。
- 17) アトランティス王国は豊かな産物を有し、その上に交易も盛んで大いに発展したが、永遠に続くかに見えたこの楽園にも次第に邪悪な影が差し始めた。
- 18) プラトンはその理由を、アトランティスの人々が贅沢に味を占め、富と物質のみを追い求めた結果、その神的な性格を失ってしまったからだと論評している。
- 19) アトランティスの人々はもともと神と人間の混血であり、初めの数世代の間は彼らの中で神としての性質が優位を占め、温和で思慮深く、非常に高邁な精神を保つことができた。しかし世代交代が続くにつれて次第に人間の性質が強まると、莫大な財産がかえって重荷となり、贅沢に溺れて自制心を失い、富のためには他の重要なものを顧みなくなったのである。
- 20) プラトンは、アトランティス王国がアテネ侵攻を企てたが、アテネ軍の果敢な反撃により敗れて退いたとし、神がその力をアトランティス側からアテネ側へ移した結果だと説明する。
- 21) さらに大地震と洪水が襲い、アトランティスは民族と文化遺産をそのまま抱えたまま海中に沈んでしまい、大量の土砂が海底に堆積してジブラルタル海峡はギリシア人の航海を妨げるようになったという。

III. 아틀란티스神話と濟州神話の比較 - 符都誌



징심록(澄心錄) - 15지(誌)			
구분	상교(上敎)	중교(中敎)	하교(下敎)
1	부도지(符都誌)	사해지(四海誌)	농상지(農桑誌)
2	음신지(音信誌)	계불지(袈裟誌)	도인지(陶人誌)
3	역시지(曆時誌)	물명지(物明誌)	?
4	천웅지(天雄誌)	가악지(歌樂誌)	?
5	성신지(星辰誌)	의약지(醫藥誌)	?

징심록은 3종류(상교, 중교, 하교) 15권의 지誌로 구성
 추가) 금척지, 징심록추기 = 모두 17권



III. アトランティス神話と済州神話の比較



마고							
궁희				소희			
황궁씨	청궁씨	천녀1	천녀2	백소씨	흑소씨	천녀3	천녀4
아들	아들	딸	딸	아들	아들	딸	딸

Ⅲ. 아틀란티스神話と濟州神話の比較

구분	실(實)	허(虛)
마고대성(麻姑大城)	실달지성(實達之城)	허달지성(虛達之城)
마고의 비행물체	지구(행성)	달(위성)

선천의 시기			
위치	상부(윗쪽)		하부(아랫쪽)
구분	마고대성	허달대성	실달대성
병렬	마고성이 허달성과 함께 실달성 위에서 병렬하였다.		

Ⅲ. 아틀란티스神話と濟州神話の比較

마고성에 지유(地油)가 나오기 시작했다.			마고성의 변화
구분	이희(궁희와 소희)		지유가나옴에 따라서 이희가 사천인 사천녀 를 낳고 지유(地油)를 먹여서 길렀다.
생산(출산)	사천인(四天人)	사천녀(四天女)	
목적(임무)	집률-울을 맡다.	집려-려를 맡다.	

1. 제 1장 원문

麻姑城은 地上最高大城이니 奉守天符하여 繼承先天이다. 城中四方에 有四位天人이 提管調音하나, 長日 黃穹氏요, 次日 白巢氏요, 三日 靑穹氏요 四日 黑巢氏也라. 兩穹氏之母曰穹姬요 兩巢氏之母曰巢姬니, 二姬는 皆麻姑之女也라. 麻姑는 生於朕世하여 無喜怒之情하니, 先天爲男하고 後天爲女하여 無配而生二姬하고, 二姬도 亦受其精하여서 無配而生二天人二天女하니 合四天人四天女였다.

III. 아틀란티스神話と濟州神話の比較-符都誌

1. 麻姑城은 地上最高大城이니 奉守天符하여 繼承先天이다.
마고성 지상최고대성 봉수천부 계승선천
2. 城中四方에 有四位天人이 提管調音하니
성중사방 유사위천인 제관조음
3. 長曰 黃穹氏요, 次曰 白巢氏요, 三曰 靑穹氏요 四曰 黑巢氏也라.
장왈 황궁씨 차왈 백소씨 삼왈 청궁씨 사왈 흑소씨야
4. 兩穹氏之母曰穹姬요 兩巢氏之母曰巢姬니, 二姬는 皆麻姑之女也라.
양궁씨지모왈궁희 양소씨지모왈소희 이희 개마고지녀야
5. 麻姑는 生於朕世하여 無喜怒之情하니, 先天爲男하고 後天爲女하여 無配而生二姬하고,
마고 생어짐세 무희로지정 선천위남 후천위녀 무배이생이희
6. 二姬도 亦受其精하여서 無配而生二天人二天女하니 合四天人四天女였다.
이희 역수기정 무배이생이천인이천녀 합사천인사천녀

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較

1. アトランティスの存在時期；BC 9,570年 ~ BC 9,000年頃
2. 滅亡事由；大地震と大洪水
3. 位置；地中海の外の巨大な大洋に位置する大陸の港湾

任煥永は、プラトンの言うアトランティスはマゴ族が移動していったアメリカで誕生した新たな氷河期文明だと言えるとする。1、2、3の事項を見ると、氷河時代末期としてBC 9,000年頃に後氷期が始まり海水面が140m上昇したのだから、アトランティスは明らかに巨大な大陸棚がよく発達したアメリカ西インド諸島付近か、東アジアの沖縄付近であったに違いないという。ギリシア・ローマ以前のヨーロッパは継続的にアメリカの侵略を受けていたという。

こうした物語の源はエジプトの祭司がSolonに伝えたものであり、それが彼の友人であるDropidesに伝えられ、さらにその友人と曾孫であるCritiasとの対話の形でプラトンが記録したものであるが、Critiasはプラトン (Platon) の曾祖外祖父にあたるため、プラトンが海の神ポセイドンの部分を脚色したものと見られるという。

ソロンはギリシア屈指の政治家であり、決していい加減な話を受け入れて伝えるような人物ではなく、プラトンもギリシアを代表する哲学者として今日まで頻繁に人の口に上る大学者であり、たわごとを口にするような人物ではなく相当な根拠があったのであって、プラトンのかの有名なアイデア論はアトランティスに由来するものとも見ることができる。

韓国語の「アドゥル (息子)」やアトランティスはいずれも北ソト語に由来するが、韓国語の〈물 (水)〉も北ソト語のmoela (stream) に由来したものであり、韓国語の中でオギヤ・オヨチャなど水に関わる謎めいた言葉はすべて北ソト語であり、アメリカ・インディアン語も大部分が北ソト語に由来した。

任煥永のほかにもスندگانと済州島を結びつけた研究者たちは、三姓穴神話も再解釈する。三姓穴神話の

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較

マゴ婆をはじめとするマゴ族は、エルサレム（要塞の意）である孟骨群島の流域を離れ、アメリカのメキシコにある新たなエルサレムへ移住した。〈エルサレム（Yerushalayim）〉はルワンダ語のyerurutsa（to hide）＋〈セト語のsala＋ルワンダ語のima〉であり、暮らしを隠すという意味で、要塞から成る〈城〉を意味する。符都誌のマゴ城もまた城の意味を持っている。珍島南部の孟骨群島こそが、まさにプラトンの言うアトランティスであったという。メキシコのインディアンは北ソト族であり、マゴの後裔であって、セト族であるケルト族は後氷期に北方の五大湖やミシシッピ川流域へ移住した後、大西洋を渡ってヨーロッパと北アフリカ西海岸に上陸した。このとき南米一帯に築いた文明を、既存のアトランティスの名を付けて造ったものであり、これがアトランティス・ユードの研究者たちが主張するアトランティス南米説の起源となる。アトランティス（Atlantis）は北ソト語の〈atla（to prosper）＋ntisa（to care）〉であり、atlaは韓国語の〈アドゥル（息子）〉の語源であって、遷都した首都を意味するという。

〈シュメール王名表〉においてBC 3,500年の〈大洪水〉以前の歴史をすべて足し合わせると、韓半島に建てられたソルムンデハルマンのマゴ王国の起源であるBC 12,000年が算出されるという。

セト族がケルト族であり

Ⅲ. 아틀란티스神話と濟州神話の比較

수메르 홍수이전 시대

도시	통치자	단위	기록연도	환산연도(년)	기간(년)	연도(BC)	시대
에리두	알룰림	8 sars	28,800	480	1080	11,200	마고시대
	알라가르	10 sars	36,000	600		10,120	
바드티비라	엔엔루 안나	12 sars	43,200	720	1200	8,920	황궁씨 시대
	엔멘갈 안나	8 sars	28,800	480			
	두무지	10 sars	36,000	600	1080	7,840	황궁씨 및 아틀란티스
라라크	엔-시파드-지드-아나	28800년	28,800	480			
시파르 슈트팍	엔-멘-두르-아나	21000년	21,000	350	660	7,180	황궁씨
	우바라-투투	18600년	18,600	310			
계			241,200	4,020			

Jack Finegan(1974)

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較ーソルムンデハルマン

ソルムンデハルマン説話の大筋は次のとおりである。

- 1) 昔、済州島には〈天地を創造した女神〉に相当する老婆がいた。
- 2) その老婆はスカートの裾に〈土を盛って数多くのオルムを造り〉、漢拏山もその一つであった。
- 3) 老婆は〈済州と韓半島南海岸を結ぶ〉能力があり、実際に結ぼうとした。
- 4) ところが老婆の〈要求条件は絹百反〉であり、民はこれを〈完納できなかった〉。
- 5) 結局、ハルマンは〈陸地との連結に失敗〉し、〈水に落ちて死んだ〉。

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較ーソルムンデハルマン

- 1) ソンムンデハルマンは天地を創造した女神であった…これは最終氷期に海水が引いて大陸棚が陸地として現れた時期の女性族長であったことを示す。
- 2) 土で多くのピラミッド状の土塁を築いた。これは西南海の大陸棚大平原に洪水が周期的に氾濫したため、生き延びるために高い土塁を築いて居住し、平時には下りてきて農耕や狩猟を行ったことを意味する。
- 3) 済州島と韓半島南端をつなごうとした。氷期には海水面が現在より130m低くなり済州島と韓半島がつながっていたが、ただ黄河や鴨緑江・漢江などが合わさった大河がその間を流れていたため、橋を架けねばならなかった…
- 4) ハルマンは民に紬100束を求めたが99束しか受け取れなかった。当時の貨幣は代表的な商品である麻布(麻)であったが、後の歴史時代には紬が貨幣に代わり、ハルマンは統治者として民に税を求めたのである。そして、民がハルマンの求めた税を完納できなかったことは反乱事件があったことを示し、ハルマンは政権を奪われ、国が大きな混乱に陥ったことを示す。
- 5) ハルマンは陸地との連結に失敗し水に落ちて死んだ…これは後氷期に至り氷河が溶けて海水があふれ、国が滅亡し多くの民が水没し、ハルマンの時代が永遠に海水の中に消え去ったことを意味する。

Ⅲ．アトランティス神話と済州神話の比較－尊者庵址

現在、済州特別自治道記念物第43号に指定されている。一部では済州仏教の発祥地と推定する見方もある。このような推定は、洪裕孫の「尊者庵改構誘引文」における「尊者という名の庵が造られたのは三姓(三姓)が初めて起こった時であった」という一文と、『大蔵経』法住記の第6尊者・跋陀羅が阿羅漢とともに住んだという耽没羅洲(耽没羅洲)を済州島に比定したことに大きく由来する。)

